

…私の人生は終わった…
～入所から在宅復帰までの軌跡～

入所から在宅復帰
基本ケア（水分・食事・排泄・歩行）
多職種連携

特別養護老人ホーム 和幸園

発表者 (研究者)	介護主任 星田 恵実 生活相談員 杉田 隆介
--------------	---------------------------

施設の概要

設置主体	社会福祉法人 北海道ハピニス	経営主体	社会福祉法人 北海道ハピニス
開設年月日	昭和50年	所在市町村	札幌市
市町村人口	1,919,664 人	65歳以上人口 (高齢化率)	424,087人 (高齢化率22.1%)
利用者定員数	100 人	利用者平均年齢	85.62 歳
職員数	84 人	職員数内訳	介護職 52名 看護職 8名
併設施設・事業	短期入所生活介護、通所介護、障害者支援施設、生活介護事業所		
施設のサービスの概要	介護を必要とする高齢者の生活を24時間支える入居施設です		

発表の概要

<p>①取り組んだ課題 独居での在宅生活が困難となり、入所目的でロングショートステイを利用されたA様は入所当日「私の人生はこれで終わった」とつぶやかれた。意欲の消失は顕著で、介護職員は「なんとかお元気になってほしい」と基本ケア（水分、食事、歩行、排泄）を中心としたアセスメントを行い、ケアプランに沿った支援を実施した。</p> <p>②具体的な取り組み 1 基本ケアによる変化 ①排泄…紙パンツ、尿・便失禁あり →入所当日より布パンツ+パットに替えトイレ誘導 ②食事…やわらか食、食欲なし →常食へ、食欲向上 ③歩行…車椅子、立位不安定 →歩行器歩行→シルバーカー歩行 ④水分…700ml→1,500ml</p> <p>2 多職種連携 ①ケアマネジャーと連携し、フォーマル、インフォーマルの環境を整えることができ在宅復帰が実現した。 ②在宅復帰のためのADLの向上に多職種が同じ方向で関わった</p>	<p>③活動の成果と評価 ADLの向上に伴いA様は一度は諦めていた在宅生活に戻りたいと希望されるようになり、介護職員、相談員、PT、看護師、CMが連携をとりながら在宅復帰への調整を図り、5ヶ月後住み慣れた我が家へと戻る日が訪れた。入所時の沈みきった表情とは別人のような晴れやかな表情で別れを惜しみながら、和幸園をあとにされた。見送る職員もいいような寂しさを覚えながらも、達成感や仕事に対するやりがいを感じていたように思う。</p> <p>④今後の課題 入所された方が、特養のケアでお元気になり、在宅に復帰できるケースをもっと増やしていきたい。</p> <p>⑤参考資料など 全国老施協・自立支援介護ブックレット 「水」「歩行と排泄」「食事」 国際医療福祉大学大学院教授 竹内 孝仁 公益社団法人全国老人福祉施設協議会 2012年</p>
--	--